



# かしま友愛

第22号

2012年4月20日

社会福祉法人  
加島友愛会事務局  
大阪市淀川区加島1-60-36

☎ 06-6101-6601

介護付き有料老人ホーム・小規模多機能型居宅介護事業『リュミエール加島』が、いよいよ完成し、三月三十日に竣工式がおこなわれました。加島・三津屋地域の皆さんをはじめ連帯交流の社会福祉法人の皆さんが多数かけつけ、法人役員・工事関係者を含め百二十名余の参加者によって盛大に開催されました。

竣工披露パーティでは、平田理事



## リュミエール加島竣工式

### 盛大に開催される

長のあいさつ、三座建築事務所森田会長による工事経過報告、感謝状贈呈の後、金谷淀川区長、社会福祉法人あさか会山本副理事長、オレンジコープ泉南生協笠原理事長ほか、多数の熱い激励の祝辞が続きました。

## リュミエール加島4月1日より入居始まる!

内覧会のご案内

4月28日(土) ~ 5月6日(日)

内覧会ご予約・お問い合わせ  
0120-087-322

\*ご予約の方には、食事・コーヒー(無料)をご用意します

## コラム

### かしまの光

二月に高齢者施設の見学と交流を目的として中国・南京を訪問した▼南

京は人口七〇〇万人、明の時代の首都で大虐殺の地としても知られている▼訪問した施設は十カ所。ほとんどが日本の非該当・要支援にあたる高齢者の利用施設で、送迎等のサービスはなかった▼日本との大きな違いは廊下やダイニングなどのスペースの冷暖房がないこと。聞けば「経費の問題とお年寄りが嫌がるから」だそう。日本では「施設内」だが、中国では「部屋内」ということか。職員も厚着をして仕事をしていた▼利用者の状況や職員体制の違いはあるものの、職員確保や人件費高騰による経営面での難しさは日本と共通していた▼職員の雰囲気により入所者の表情が違ってくるのも同じだった。若い職員が笑顔で働いている所は、当然入所者も楽しそうだった。国や制度が違っても変わらないものを見つけることができた。



笠原理事長      山本副理事長      金谷区長      森田会長



社会福祉法人加島友愛会

理事長 平田 純博

# 『人の世に熱あれ 人間に光あれ』 『リュミエール』はフランス語で「光」の意

ル加島』は地域に開かれた運営に努め、地域の福祉拠点として住民の皆様と共に歩んでいきたいと考えております。

さて、二〇〇〇年に私たちは特別養護老人ホーム『加寿苑』を開設し、地域の高齢者福祉に努めてきたところですが、入所待機者問題の解消が開設直後から大きな課題と認識しておりました。

シヨートステイ・デイサービス・訪問介護事業の充実をはかるなどの対応をまいりましたが、加島・三津屋地域に新たに特別養護老人ホームを開設すべきとの認識で大阪市当局と協議してまいりました。しかし、「大阪市北西部の新たな特別養護老人ホームの設置計画はない」との当局の姿勢を翻すことはできませんでした。

高齢化のスピードに介護サービスの供給が追いつかないこと、財政難から施設整備・介護給付費の国・行政負担の抑制ということが背景にあると思います。したがって、民間企業でも参入できる『特定施設入居者生活介護』すなわち『介護付き有料老人ホーム』以外選択肢があり

ませんでした。

特別養護老人ホームは制度的に、施設整備に国・市町村の厚い補助金・助成金が投入され、入居金は必要なく、低所得（年金）であっても生活保護受給の方でも入所できるような利用者の立場にたったシステムになっております。

他方、有料老人ホームは土地をはじめ施設整備費は全て運営主体の負担となっており、固定資産税の課税対象であり、また「公益事業」とはいえ法人税の課税対象にもなります。したがって、私たちとしては思いと異なって、『リュミエール加島』ご利用の方には施設整備コストを負担していただくため入居金・家賃などをお願いしなければなりません。

ご家族の介護力低下の中、介護が必要なため特養加寿苑、『リュミエール加島』をご利用の方に対し、同様の介護サービスを提供いたします。しかし結果的に所得階層別に利用負担をお願いする、施設サービスご利用の「棲み分け」になると考えております。

この点、憲法二十五条の理念はいずれに、との感を抱かざるをえません。

また、『リュミエール加島』は小規模多機能型居宅介護事業を併設しており、デイサービス・シヨートステイ・訪問介護のサ

ービスを提供いたします。

私たちはもともと施設介護より地域に密着した『宅老所』の方が望ましいとの考えをもっており、特養『加寿苑』開設に先立って一九九六年に開設した『美津島地域高齢者デイサービスセンター』は、その理念のもとに運営してきましたが、私どもとしては加島・三津屋地域に二つ目の『宅老所』を開所することになります。

『リュミエール』とはフランス語で『光』を意味し、私たち法人の理念『人の世に熱あれ、人間に光あれ』という言葉からとって施設の名称としました。

加島・三津屋地域をはじめ淀川区、近隣地域の高齢者福祉に『リュミエール加島』が少しでも貢献できるよう、社会福祉や医療に関わっておられる仲間の皆様と連携しながら努めてまいりますと存じます。

地域の皆様をはじめ各方面の皆様のご理解ご支援に重ねてお礼を申しあげ、今後変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(竣工式あいさつより)

## 祝電

リュミエール加島のご開所を心からお慶び申し上げます。この度の開設準備に邁進された方々のご努力に敬意を表すとともに、貴法人のますますのご繁栄をお祈り申し上げます。

島根県 社会福祉法人草雲会  
理事長 佐草英利 様

3月、第6回理事会・第3回評議員会において2012年度事業計画、予算、定款変更が熱心に審議され、原案どおり決定されました。



## 2012年度事業計画の概要

### (1) 地域に夢を レインボープラン10年計画・第1期の課題実現

- ① リュミエール加島の事業開設による高齢者福祉サービスの提供  
加寿苑入所待機者問題の解消
- ② 知的障害者ケアホームの新設
- ③ 市営住宅の障害者ケアホーム（4ヶ所） 近隣加島市営住宅への移転
- ④ 高齢者・障害者ヘルプサービス合同基地設置、地域交流室の建設  
今秋に着工、2013年オープン予定
- ⑤ 障害者就労継続A型（雇用型）の実現
- ⑥ 福祉有償運送事業（介護タクシー）の開業
- ⑦ 高齢者地域包括支援センターの健全経営

### (2) 他地域・市内・他県への事業展開、加島友愛会ブランドと人材育成

- ① 加島・三津屋地域での高齢者・障害者福祉のさらなる推進
- ② 韓国、マレーシア、中国などの研修生の受け入れと交流促進  
他地域・大阪市内・大阪府内・近隣他県への事業展開
- ③ 『福祉の市場競争原理』に耐えうる加島友愛会ブランド、福祉人材確保と育成

### (3) 地域福祉の発展と社会福祉政策の充実

- ① 地域住民団体、運動との連携強化
- ② 各種福祉団体との連携、社会福祉政策充実のための交流・運動への参加

### (4) 本部機能の強化と法人運営・事業運営の現代化、健全経営

- ① 事業拡大にともない、スタッフ増員など本部機能の強化
- ② 事業運営では、数値目標を設定し目的意識的な事業運営をはかる
- ③ リュミエール加島の集中運営強化

### (5) キャリアパスの構築、人事考課制度の実施

- ① キャリアパスの構築
- ② 人事評価制度の本格実施

### (6) 基本機関の運営

理事会・評議員会、常務会、経営会議の定例開催、後援会活動

### (7) リスクマネジメントの強化

- ① 福祉現場の安心・安全な生活を支える、設備環境の改善、スタッフ欠員への速やかな補充と職員教育
- ② 救急救命研修、感染症対策、火災避難訓練、見守りの強化

### (8) 地域に根ざした事業展開

加寿苑、リュミエール加島、加島希望の家、アンダンテ加島、かしま障害者センターにおける高齢者・障害者福祉サービスの、加島・三津屋地域に根ざした事業運営をはかる

### (9) 人材の確保・育成、職員研修の充実、自己研鑽の奨励

### (10) 広報活動

- ① 「かしま友愛」の発行
- ② ホームページの積極的活用
- ③ JR加島駅内の広告、看板設置、新聞・ミニコミ紙の活用



新しいケアホームを建設  
(今秋着工)



に行きませんか？

加島友愛会の施設のお米は滋賀県JA東びわこで作られている低農薬有機栽培米です。

現地で実際に田植えをおこない、農家の皆さんと交流をしませんか。

- ◆日 時 5月13日（日）  
午前8時集合
- ◆集合場所 加島希望の家
- ◆参加費 大人2,000円 子ども1,000円

※参加希望の方は加島希望の家まで連絡  
ください（☎6390-5666）

## 2012年度 社会福祉法人 加島友愛会 連結収支予算書 (概要)

単位千円 2012/4/1

勘定科目	法人 全体連結予算	加寿苑	加島 希望の家	アンダンテ 加島	かしま 障害者 センター	リュミエール 加島	施設整備	法人本部
------	--------------	-----	------------	-------------	--------------------	--------------	------	------

## 【就労支援事業活動による収支】

就労支援事業収入計 (移行・継続B型)	22,164	0	0	0	22,164	0	0	0
就労支援事業支出計 (移行・継続B型)	18,580	0	0	0	18,580	0	0	0
就労支援事業活動収支差額	3,584	0	0	0	3,584	0	0	0

## 【経常活動による収支】

介護保険収入	612,560	449,337	0	0	0	163,223	0	0
介護職員処遇改善交付金	14,390	9,084	0	0	0	5,306	0	0
ショート事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0
就労支援事業収入 (就労支援)	30,444	0	0	0	30,444	0	0	0
自立支援費収入	638,881	0	115,000	264,868	259,013	0	0	0
障害者自立支援対策臨時特例交付金	16,456	0	1,935	7,203	7,318	0	0	0
補助事業収入	52,334	23,555	0	1,121	27,658	0	0	0
補助事業収入 (包括支援返還金)	▲3,257	▲3,257	0	0	0	0	0	0
入居金償却収入	12,480	0	0	0	0	12,480	0	0
家賃収入	27,720	0	0	0	0	27,720	0	0
管理費収入	21,660	0	0	0	0	21,660	0	0
食事代収入	22,248	0	0	0	0	22,248	0	0
宿泊収入	1,440	0	0	0	0	1,440	0	0
雑収入	99,706	41,963	5,993	31,439	15,051	5,175	0	85
受取利息配当金収入	73	17	3	12	17	2	2	20
経常収入計	1,547,135	520,699	122,931	304,643	339,501	259,254	2	105
人件費支出	937,424	307,836	66,180	163,996	211,136	146,496	0	41,780
事務費支出	208,994	65,818	14,474	34,361	39,982	47,453	0	6,906
事業費支出	177,152	73,262	10,421	34,948	23,029	35,492	0	0
借入金利息支出	14,864	2,077	0	988	1,460	10,339	0	0
経常支出計	1,338,434	448,993	91,075	234,293	275,607	239,780	0	48,686
経常活動資金収支差額	208,701	71,706	31,856	70,350	63,894	19,474	2	▲48,581

# ふれあいコンサートに出演

淀川区では、毎年「地域ふれあいコンサート」が区民センターで開催されています。

これは地域のボランティアグループの発案で、「施設入所者にも唄や踊りのアトラクションを楽しんでもらおう」との趣旨から十二年前に始まったものです。第三回目からは実行委員会を結成し、区全体の取り組みとなりました（事務局・淀川区社会福祉協議会）。単にイベントを開催するだけではなく、区民センターに段差解消機を設置するための募金活動や昨年の大震災の義援活動などもおこなってきました。

加寿苑は、八年前から「観る側」でなく「出る側」として参加。音楽クラブの皆さんが『加寿苑の歌』をはじめとして昔の流行歌や童謡を練習し、参加者の前で披露しています。

「最高齢一〇〇歳。平均年齢九十歳」と紹介されると、毎回会場からどよめきと大きな拍手が沸き起こります。

中には会場に着いてから出演を「抵抗」する人も。「調子が悪い」「こんなことは聞いていない」と言われる場合もあります。出演後はそんなことを忘れたかのような晴れ晴れとしたお顔で舞台から降りて来られます。

今年（五月二十七日（日））は午後二時頃からの出演となります。



# アンダンテ加島

アンダンテ加島では年末年始にかけて小グループに分かれて食事会に出かけます。

「一年間作業や活動お疲れさま、来年（今年）も頑張りますよ」という、いわば忘年会や新年会のようなものです。食事の後は各グループのニーズにあわせて、買い物やカラオケ、銭湯などに行きます。今回は私が参加した食事会の様子を報告します。

行先は、JR尼崎駅のすぐそばにあるココエ内のお店。ココエは普段から軽食余暇や個別での外出で利用しているところなので、利用者の皆さんも特に緊張されることもなく、スタッフと会話を楽しむ人、黙々と食べる人と様々でした。また、バイキング形式のお店だったので普段より皆さん多目に食べられており、満足そうな表情をされているのが印象的でした（スタッフもたくさん食べました）。

食後は各々分かれての行動で、私は銭湯グループに同行しました。皆さん、露天風呂やジャグジー風呂等、いろいろな温泉に浸かりゆつくりと過ごされていました。普段の生活場面とは違う場所で過ごすことで、良いリフレッシュの機会になったと思います。

このような機会は利用者の方の気分転換はもとより、職員との関係をより深めることができる機会でもあります。また、その中で新たに発見したことなどを、利用者の方への良い支援につなげていきたいと思えます。

（生活支援員 杉本 和茂）



# 食事会でリフレッシュ



## 二十周年記念式を開催

### 加島希望の家

加島希望の家は一九九一年の

開所から二十年を迎えることができました。これを記念して三月二十五日に加島希望の家の「二十周年記念式」を市民交流センターよどがわで開催しました。

式典には、希望の家の利用者や家族、希望の家からアンダー加島やかしま障害者センターむつみに移られた利用者、また長年陶芸教室でお世話になった西村先生や音楽療法の浦川先生もお見えになり、久方ぶりの対面を懐かしむことができました。式辞では、平田理事長から加島友愛会並びに加島希望の家の設立にいたるまでの思いやこれまでの経緯等の紹介、あわせて協力していただいた地域の皆さま

ん、利用者・家族への感謝の言葉がありました。

続いて歴代の施設長からお祝いの言葉と開設当時の手探りで活動していた頃のエピソードなどを話していただきました。その後、利用者代表・家族会会長からの祝辞をいただき記念品の贈呈式へ移りました。

### 二十年の軌跡をふりかえる

後半は、希望の家の現在の活動とこれまでの二十年の軌跡を写真とビデオで振り返りました。初めての「泊旅行」「新舞子での海水浴」の写真が始まると若々しい当時の様子に会場から笑いと歓声が起こります。



### 家族からのコメント

加島希望の家開所20周年おめでとうございます。

早いもので、私たちがこの地に来て30年がたちます。娘の小学校で知り合った同じ境遇のお母さんとお互い励まし合っていました。しばらくしてその方の親子心中という大変ショックな出来事がありました。このことを重く受け止めた多くの方々とともに作業所をつくり、希望の家設立につながりました。

この20年、スタッフの努力と情熱で利用者はゆっくりと歩んで来ています。これから30年、40年と続くであろう希望の家に、親は希望を持っています。

しかし、その反面不安を抱えた大きな問題があります。それは利用者の高齢化と保護者の体力と気力の衰えです。「どうなるやろ」「なるようにしかならんで」などの声はありますが、でも今後も私たちは孤立してはいけなことを心に刻んで行かなければと思っています。

願わくば30年の節目も親子共々元気で迎えたいと願っています。(一柳 信子)

加島希望の家20周年おめでとうございます。

息子がお世話になって、19年がたちます。当時は卒業後に通える場所も少なく、年限が厳しくある施設が多い中、「行く場所のない人を見捨てることはしない」という、平田理事長の言葉に心安らいたことが深く心に残っています。

利用者が利用しやすい環境が整ってきましたが、これからも利用者の立場にたった施設であることを心から望みます。(宮里 邦子)

秋の遠足、クリスマス会、バザー、調理実習など色々な活動が次々と写されていきました。

どの活動も当時は初めての事ばかりで、「本当にできるのか?大丈夫だろうか?」と不安ばかり。試行錯誤を繰り返す毎日でした。

式典を通して、この二十年が皆さんとともに一歩ずつ前進し

てきた結果だと改めて実感しました。

最後に西村先生のハーモニカと参加者の拍手で式典を締めくくることができました。これから先二十五周年、三十周年がさらにより形で迎えられるようにさらなる努力を続けていきたいと思えます。

(施設長 小西 研二)

## かしま障害者センター

## 新たな指定を〜 `COCOLO、相談支援センター

相談支援は2000年の社会福祉法改正によって法制化されたことをきっかけに、障害を持った方たちにとって重要な位置づけとなりました。しかしこの間、市町村によって取り組み状況やノウハウ（力量）に大きな差があること、体制整備が不十分であること等が指摘され続けてきました。こうした課題を受け、今回の障害者自立支援法の一部改正に伴い、2012年4月から相談支援体系が「特定相談支援事業」「一般相談支援事業（地域移行支援・地域定着支援）」「障害児相談支援事業」の三つの体系に整理されることになりました。

大阪市の場合、これまでは大阪市から委託を受けた相談支援事業所と地域活動支援センター（生活支援型）が中心となってサービス利用計画案の作成や障害福祉サービス事業所との調整などを行って

きましたが、今後は大阪市の指定を受けた「特定相談支援事業所」（障害児の場合は「障害児相談支援事業所」）が障害福祉サービスの利用を希望される方を対象に、総合的な援助方針や解決すべき課題を踏まえた上で、適切なサービスの組み合わせや支援内容等について検討し、継続的に調整を行います。

また、長期間に渡って病院や施設へ入院あるいは入所されている方へは「一般相談支援事業所」が、住む場所の確保から外出などの同行支援、地域での生活に必要なサービスに関するさまざまな調整などを行います（退院・退所された後も相談や緊急時の対応など継続した支援を行います）。日本相談支援専門員協会が作成したガイドラインには「その人の生活を成立させ継続するために必要なサービスや制度の利用について情報を提供し、ニーズを適切に把握し、多様な資源に結び付け、資源がなければ開発して障害者のニーズを充足させる包括的な相談支援が、身近に必要」としてあります。

今回、`COCOLO、相談支援センターも大阪市から「特定相談支援事業所」と「一般相談支援事業所（地域移行支援・地域定着支援）」の指定を受けました。今後はこれまで以上に、障害福祉サービス等の情報を幅広く提供し、活用できるサービスについての説明、希望に添ったサービスの調整に努め、これらを一体的に提供できるよう頑張りたいと思います。

（支援課長 萩原 浩史）

※2012年4月から障害福祉サービスを利用される際には「サービス等利用計画」の作成が必要になります。大阪市の場合、①新規に障害福祉サービスを利用される人、②サービスの支給決定量が大きく変わった人が当面对象となります。該当される方へは障害程度区分が認定された後に区役所から「利用意向調査票」が送られますのでご確認をお願いします。

## 新たな取り組みにチャレンジ



支援のあり方を常に見直しひとりひとりが充実した毎日が送れるよう、そして初めての一泊旅行も企画し、楽しい一年にしていきたいと思えます。

（支援課長 胡麻 陽子）

## むつみ

むつみの就労継続支援事業B型では四月より利用者さんが四名増えました。五月下旬頃より施設外就労に取り組めるよう準備を進めています。数名の利用者さんとスタッフが豊中市にある企業の工場に行き、そこで布団やタオル類の洗濯の作業を行う予定です。

それに伴って施設内で行っている作業内容も変更し少しずついろいろな変化がありますが、利用者みなさんは落ち着いて作業に取り組みれています。作業工賃の増額を目指し、働くことへの意欲を高めていけるよう支援していきます。

生活介護事業では、開所当初より利用者さんだけでなくスタッフの人数も増えてきたので、ダイニングを仕切って二つの部屋にし、環境を整えて落ち着いて過ごせる場を提供していく予定です。

4月オープンを迎えこれからは正念場。入居者に喜んでいただけるような施設にしていきたい。そのためには介護サービスを提供するスタッフの育成が必要です。建物が立派ということだけでなく、それに恥じない心のこもったケアができたと思います。

副施設長として何をすべきか、その役割も含めてこれからも問いかけていきたいです。

(副施設長 江見 昭仁)



4月よりオープンした介護付有料老人ホーム「リュミエール加島」。5月からは小規模多機能型居宅介護事業もスタートします。新しい職場で働く職員に抱負を語っていただきました。

1991年の社会福祉法人加島友愛会の設立から20年の時を経て「リュミエール加島」が誕生しました。法人の歴史を踏まえ、基本理念である「人間に光あれ」を心に据えて事業運営に努めてまいります。

(施設長 高階 宣夫)



このたび、機能訓練指導員として働くことになりました。

大阪市在職中は、加島障害者会館・加島希望の家・アンダンテ加島の職員・利用者の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

これからは社会福祉法人加島友愛会の一員として、高齢者・障がい者の方が人権を尊重され地域で安心して暮らせるように頑張っていきたいと思います。

(機能訓練指導員 大川 和裕)



リュミエール加島には温冷配膳車のような保温庫がなく、温かく提供するにはこまめな盛付が必要で大変です。でも、食べる様子が見えるので、がんばりがいがありモチベーションも上がります。「おいしい物が食べたいから来たよ」と言っていたら？なじみのレストラン？になれるよう、厨房職員一同がんばっていきます。

(管理栄養士 木下 京美)



看護師になり40年。「人の気持ちを大切に」「その人らしさを考える」。リュミエール加島と出会えて良かったです。

「ここに来て良かった」「温かみのある城」と思っていたできるように、スタッフ皆で築いていきたいと思っています。

(看護師 酒井とし子)



5月から小規模多機能型居宅介護で計画作成および介護をさせていただきます。「小規模多機能型居宅介護」という介護サービス、聞き慣れない方も多いかと思いますが、平成18年4月の介護保険制度改正時に、新たなサービス体系として創設された地域密着型サービスのひとつです。

病気などで介護が必要になった方も、できる限り住み慣れた地域での生活が継続できるよう、「通い」「泊まり」「訪問」を希望や状態に応じ組み合わせ、24時間365日を施設スタッフが対応しますので連続性のあるサポートができます。

試行錯誤しながらですが、地域の方々、利用される方のご家族等のお力を借りながら、色々な方のたくさんの笑顔が見られるよう、「利用して良かった」と言っていたら、頑張っていこうと思いますのでよろしくお願いいたします。

(支援課長 河野 文子)



ご利用料金

介護付き有料老人ホーム

Aタイプ (約45㎡)	入居一時金	4,000,000円
	月額利用料	241,000円
*お二人入居の場合		
Bタイプ (約20㎡)	入居一時金	1,800,000円
	月額利用料	133,000円

小規模多機能型居宅介護

〈デイサービス・宿泊・ヘルパー派遣〉

介護保険自己負担	月額	4,840~30,454円
食事代	朝/200円 昼/600円 夕/600円	
宿泊 (6室)	一泊	2,000円

はじめまして鍼灸師の宮崎です。こり・痛み・しびれ・むくみで悩んでいませんか？

お体をほぐして健康な毎日をお手伝いさせていただきます。

(鍼灸師 宮崎 遵)

